

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第1回 近江八幡市西の湖廻遊路整備推進会議		
開催日時	令和3年8月19日（木） 14時00分 ～ 15時20分		
開催場所	近江八幡商工会議所2階 大ホール		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	別紙参照		
次回開催予定日	令和3年10月27日（水）		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 東 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

■ 1. 開会

事務局

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴うまん延防止等重点措置期間であることから、会議は当初2時間を予定していたが、出来るだけ短縮できるよう協力願いたい。

■ 2. あいさつ

市長

- ・平成22年3月に旧近江八幡市と旧安土町が合併し、行政区で分断されていた西の湖が一つの行政区になったこと、また重要文化的景観でもあり、非常に重要な本市のシンボルの一つである。
- ・平成23年4月に産官学民による本市のまちづくりの推進を目的とし、滋賀県立大学、近江八幡商工会議所、安土町商工会および本市による4者連携協定を締結し、地域資源としての西の湖を生かしたまちづくりを進めるという議論を行ってきたが、具体的取組に至っていない状況である。
- ・当市のシティプロモーションをはじめとして、近江八幡市を市民だけでなく、県内外の方、広くは海外の方にも知っていただき、県内でも特に歴史や文化、自然環境などの貴重なものが多く残っているということ、西の湖を含め、情報発信していきたい。これも地域の発展のために、非常に重要なテーマである。
- ・新たに西の湖廻遊路整備推進会議を始めるにあたり、具体性を持ちながら進めていき、基本方針の策定をしたいと考えている。皆様それぞれの立場から貴重な提案や意見をお願いしたい。

■ 3. 委員委嘱

事務局

- ・配布資料の確認。
- ・資料1に基づき、設置要綱について説明。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各委員の手元に委嘱状を配布する形で、委嘱式を割愛する。

■ 4. 座長の選任

事務局

- ・設置要綱第5条第1項に、座長は、委員の互選により選任となっているが、いかがか。
(会場より事務局一任の声)
- ・事務局より、学識経験を有する滋賀県立大学教授の村上委員を推薦させていただく。
(全会一致で、村上委員を座長に選任)

座長

- ・西の湖廻遊路整備推進会議ということで、皆様により創造的な意見をいただきたい。様々な想いをもって参加されていると思うので、実り多き会議とするため、後程一言ずつ意見をいただきたい。

■ 5. 諮問

事務局

・諮問については、先の市長あいさつと合わせて実施したため、割愛する。

座長

・次第に基づいて、議事を進める。
・本会議では、グラフィックレコーディングという手法を使い、会議の内容を、イラストで記録していく。本会議や関連するワークショップ等でも同様に、グラフィックレコーディングを行う。公表すれば市民にも、この会議の内容を共有できるツールになるため、協力及び理解をお願いしたい。

■ 6. (1) これまでの経過

事務局

・資料3に基づき、説明。

座長

・事務局から説明があった「これまでの経過」について、質問や意見はあるか。

オブザーバー

・説明で挙げた課題の内、びわ湖よし笛ロードの老朽化等を踏まえた修繕については、近江八幡市や地域の方から要望があった。今年度予算が確保でき、修繕を予定している。
・西の湖の西側に面する場所で、距離にして1キロ半から2キロ程。
・道路の舗装だけでなく、老朽化している設置看板等も含めて対応予定である。

座長

・自転車道路の整備は、着々と進んでおり、大変追い風になる話である。

■ 6. (2) 今後の進め方及びスケジュール

事務局

・資料4に基づき、説明。

座長

・主な議題は以上であり、今までの話も含め、皆様より想いや意見を伺いたい。

委員

・推進会議が再スタートすることになり、西の湖の活性化、地域だけでなく、事業者も活性化できたら良いと考えている。

委員

・長年、官民共同で西の湖を有効活用できないかと、様々な手法で試してきた。
・これをすれば上手くいくというワンアイデアでなんとかなる場所ではなく、民間だけ、行政だけで上手くいく場所とも限らない。官民双方の考えを擦り合わせ、何をしたいかを議論し、計画を作り、前に進めていけると良い。

委員

・事務局への質問になるかもしれないが、一つは今年度の推進会議の目標設定や枠組みの部分をもっと共有した方が良い。自由な視点で意見を出し合うことも大事だが、例えば、エリアの枠組、扱える対象の枠組、あるいは最終目

標をどこにするかを共有していく必要があると考える。

- ・これまで蓄積した資料等は都度共有し、確認や活用ができるようにしていただきたい。
- ・例えば、枠組についてマトリックスで表示すると、横軸はハードとソフト、縦軸はマクロとミクロとなる。トイレや道路をどうしていくかという直接現場の空間や場所の話は「ハード×ミクロ」です。「ハード×マクロ」は、その周辺の土地利用や景観が一体となっているかという話で、ハードの面でも広く見た時と現場レベルで見た時、その2つの側面を合わせて考える必要がある。
- ・重要な観光や地域振興などがソフトにあたると思う。「ソフト×マクロ」は、やはり制度や仕組み、計画の中でどう位置づけていくのかということ。「ソフト×ミクロ」は、現場レベルも含めた関わりや成り立ちの部分。これらを最終的にアウトプットし、着眼点の整理をしていくと、まとめもうまく出来るのではないかと考える。

委員

- ・廻遊路ということなので、やはり西の湖を一周できるのが良いと考える。これは陸路も水路も想定されるが、観光客にも来ていただき、お金を落としていただくという地域経済の活性化にも寄与する方策ができれば良い。

委員

- ・平成22年の合併以来、シンボルである西の湖の賑わいや回遊性をどうしていくかという積年の課題に、個々の分野でこれまでいろんな取り組みをし、実現している部分もあるが、今一度この会議を通じて、積年の願いが実現するよう、方針を立て実行していきたいと思う。
- ・資料3で、課題を7点挙げていたが、特に①よし笛ロードから⑥景観は、ハードで動的あるいは環境整備の部分ということで比較的わかりやすい部分であり、よし笛ロードの修繕が予定されているなど、実現が近いものもある。また、環境や道路、水質の問題についても、様々なボランティアの方が取り組んでいただいていると考えている。
- ・その中で、⑦その他に記載されているソフト的な部分は分量としては少ないが、しっかりと考えていかなければならない。先程、ハード、ソフト、マクロ、ミクロの視点の話があったが、優先順位を決めて取り組む視点も合わせて、皆様と議論していきたい。

委員

- ・オブザーバーである京都大学の山口先生に協力いただき、西の湖を含めた安土地域の振興プログラムとして（仮称）安土文化景観博物館の構想を検討している。その中で、安土城復元推進委員会も含めて、西の湖というのがキーワードになっているため、この会議と連携しながら取り組んでいきたい。

委員

- ・いわゆる西の湖の回遊という考え方もいろいろあると思う。市は、7月1日に気候非常事態宣言をした。当然CO2の削減に向けて全市を挙げて取り組まなければならない中で、この宣言も葦の群生地である西の湖畔でやることに意義をもって宣言を行った。やはりこの葦の群生地自体を守り、生かすということも非常に大事になってくると考える。
- ・地球温暖化を防ぎ、CO2を出さない、あるいは抑制しながら、進められることができないかという視点も持ちながら、皆様と検討していきたい。

委員

- ・プライベートでも西の湖と接する機会もあり、非常に気持ちが良い、ゆっくりと過ごせる場所であり、多くの方に訪れていただきたいと思う。
- ・所管は許認可業務で相反する立場のこともあるが、前向きに考えていきたい。

委員

- ・説明の中でもあった平成23年4月に4者連携協定の締結の頃から関わっている。まちづくり会社まっせの設立後は、まっせと共に西の湖を知っていただくための事業として、権座を活用した松明の展示や、蛇砂川を利用した松明のイベント、それから葦刈りをするなどの取り組みを行った。
- ・滋賀県の方にも道路の整備等で、要望なども行った。当時は予算もなく、どうこうできない状況だった。今年度は予算も付き、よし笛ロードの修繕がされるということで一歩ずつ進んでいると感じる。これまで関わってきた経験からの話もできたらと思う。

委員

- ・10年来、西の湖の問題に取り組んでおり、滋賀県に毎年要望を提出している。西の湖の関連で2点要望をしており、1点目は西の湖の周遊ルートの整備で、本会議のテーマと同様である。2点目は、西の湖のプラスチックゴミの除去と、浚渫の実施である。
- ・滋賀県からの回答を見ると、例えば、プラスチックゴミの除去や浚渫については、昨年度は水質モニタリングに加えて、全域の水質改善のための調査を実施するというように、少しずつ滋賀県としても取り組んでいただいている状況であるが、やはりこの会議では、近江八幡市の長年の懸案である非常に大切な地域資源の西の湖で、具体的に動いていける取組をしていく必要があると考えるので、一緒に進めていきたい。

委員

- ・コロナで世の中の価値観が変わってしまったと思っているが、今までの話を聞いていて、そういう視点が入ってないのではないかと感じる。賑わいを通じて活性化を求めるといえるのは、果たしていいのだろうか、もう通じないかもしれない。もちろん地域の活性化は大事だが、人がたくさん来て地域が潤うという従来の観点で西の湖を捉えるのは果たして良いのかという疑問を感じる。

- ・西の湖は、もともと里海で、日々の生活の一部として捉えられてきたため、そういった形で取り入れられるようなことが出来ればと思う。安土城のお堀めぐりをやっているが、八幡側の水郷めぐりと違い、特に建物もなく、何の説明もいらぬようなコースである。参加者は都会の方が多く、ただ櫓の音や葦の音を聞いているだけで良いと言う。そして、都会の方が西の湖へ来て一日中風景を見ている。地元民から見れば、あの人は何が楽しいのかなとなるが、湖を見て、波の音、葦のざわめきを聞いている。ここに、人間の何か根源的なもの、安らぎなど、そのような魅力が西の湖にあると思う。
- ・コロナ以降の社会において、ストレス社会の側面がより強くなっており、賑わいの有り様や西の湖の魅力の視点が変化してくるかもしれない。もちろん、よし笛ロードや和船観光等を通じて、結果としてお金を落としてもらう仕組みは必要だが、今までのように100万人、200万人訪れるという活性化でなく、ストレスを癒す場として、西の湖が心の潤いや安らぎを求めてくるような場となるかもしれない。湖や自然という観点から、新しい有り様を西の湖で社会実験することが非常に重要だと思う。重要文化的景観第1号でもあり、そういう要素は十分にある。従来視点が駄目とは言わないが、そのような新しい視点を取り入れながら提言がまとめられれば良いと思う。

オブザーバー

- ・安土未来づくり課で進めている安土地域の魅力向上ワーキングの事務局支援という形で携わっており、今回はオブザーバーの立場で参加する。
- ・安土未来づくり課の事業の趣旨は、地域の皆様がこれまで長年運営されてきた様々な活動やイベント、体験交流活動のようなものを、特に高齢化等に伴い、継続していく負担も大きくなる中で、いかに継承しながらも、若い人等を巻き込んで展開していくかということが重要な課題になっている。そのような中で、これまで別々に取り組んできた活動を、安土地域全体でより一体的なプログラムや、体験交流の仕組みを作っていくことができないかということを進めてきた。
- ・その中のテーマの一つが、今まで使っていないような地域資源を生かすこと、もっとこれは使えるのではというアイデアを出し合った。例えば、西の湖すてーしょんなどの公共施設はもちろん、寺社仏閣なども含めて地域全体で生かせる資源を探し、それを地域全体で統合することによって、一体的な地域資源の活用を図ることができないかという議論を始めたところである。できるだけ地域の方がどんなことをしていきたいのかをある程度アイデアベースで固めた上で、外部人材の活用も検討しながら進めている。特に、事業運営の部分で、外部人材とコラボレーションができれば良いと考えている。
- ・実際にアイデアベースで、いろいろと取組を出した中では、西の湖周辺でのプログラムが多く出てきた。水辺の施設、水辺そのものを活用していくなど、新しく建てるというよりも、占用などで空間として活用していくという案が

多い。それらの活用をどのように事業として回していけるかの具体化を近江八幡市の皆様と話し合ってきた。

- ・本会議で話し合う西の湖にも関わる部分が多く、各取組の整合性を取りながら、一体的に進められればと考えている。

■ 6. (3) その他

事務局

- ・資料5, 6に基づき、説明。

座長

- ・活動団体との意見交換会については、学生の皆様にもぜひ参加いただきたい。ワークショップは、意見を出し合っただけで案をまとめていくということでは、おそらく今回の推進会議の案の骨格になってくるのではないかと思う。
- ・専門部会については、やはり環境整備が重要であり、その問題を解決するためには関係部署の調整が必要であることから設ける。
- ・専門部会の部会長については、行政の調整役割が非常に大きいことから、総合調整役として浪江委員にお願いしたいが、よろしいか。

(全会一致で、浪江委員を部会長に選任)

座長

- ・今後の動きについては、第2回会議で、各委員の皆様から話題を出していただき、議論を深めていくというフェーズになる。また、今年度中に基本方針の策定を行い、市長に答申をするので、その点も踏まえて、お願いしたい。
- ・本日の議論、それから論点や意見をグラフィックレコードという形で、まとめていただいたので、振り返りをする。

オブザーバー

- ・本会議で話してきた流れとして、これまでの経緯は、二つのまちの合併以来の課題である廻遊路を整備したいという思いがあり、整備している場所もあるが、一体的に整備は出来ていないという状態である。
- ・アイデアは多いが、これをどう実行していこうか、過去の議論も踏まえ、どういう視点で西の湖廻遊路を整備していきたいかということが今年度のテーマとなる。
- ・グラフィックレコードを書きながら、重要なキーワードだと感じたのは、「既存のものを守り、生かす」ということである。これに関する話は、複数の方の発言から出ていた。やはり環境に対する問題意識を皆様持っておられる。ただ振興するだけでなく、今ある環境を守り生かしていくという、この二つの両立が何より重要だということが、このグラフィックから見えてきた。
- ・それを達成するには、包括的つまり一体としてやることが重要で、4者連携も含め、ワークショップを開催し、地域活動団体の意見との整合性も図るといった一体的な活動によって、「ここは整備されているけど、あつちは整備さ

れていない。」「ここにはないのに、あそこにはある。」ではなく、まち全体でより一体的に整備していく。この一体的というところが、今年目標の一つと感じた。

- ・そして、コロナ禍でもあり、これまでの賑わいの意味、人が来てお金を落とすとして、観光地として儲かるだけでなく、持続可能性もふまえて、コロナによって変わった価値観をどう計画に取り入れていくかも重要である。

座長

- ・様々な重要なキーワードをいただいた。これらのことを踏まえて進めていきたい。
- ・本日の議題は以上となる。事務局から連絡事項はあるか。

事務局

- ・次回日程については、10月27日午後を予定している。

■ 7. 閉会

事務局

- ・以上をもって、本日の会議を終了させていただく。